

交付運用報告書

スーパーファンド・ジャパン サブファンド・レインボー・オールシーズンズ

ケイマン籍 オープンエンド契約型 外国投資信託（円建て）
作成対象期間（第16期）：自 2024年1月1日 至 2024年12月31日

～ 受益者の皆様へ ～

平素は格別のご愛顧を賜り、厚く御礼申し上げます。
当サブファンドは、オーストリア・ウィーンにて創立されたスーパーファンドグループの、外国籍公募投資信託です。
ケイマン諸島における分別ポートフォリオを運用する適用免除有限責任会社として登録され、投資会社としてのみ活動するマスターファンドへの投資を通じて、証券市場の動静から独立した投資形態を投資家の皆様に提供するために設立されました。スーパーファンドの投資顧問会社であるスーパーファンド・キャピタル・マネジメント・インクによる、トレーディング・ソフトウェアを使用した最新の取引システムに基づき、マスターファンドは運用されます。
ここに、当サブファンドの第16期の運用状況等についてご報告申し上げます。
今後とも一層のお引立てを賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

	第16期末	
	円・クラス	ゴールド円・クラス
1口当たり純資産価額	33.14円	105.43円
純資産総額	57百万円	371百万円
	第16期	
	円・クラス	ゴールド円・クラス
騰落率	△3.30%	+41.76%
1口当たり分配金額	0円	0円

（注1）純資産総額は、1口当たり純資産価額に、当期末の発行済口数を乗じ、小数点第1位を四捨五入して計算された値を記載しており、運用報告書（全体版）に記載されているファンドの財務書類における数値と一致しない場合があります。

（注2）騰落率は、税引前の分配金（もしあれば）を分配時に再投資したものとみなして計算しています。以下同じです。

（注3）1口当たり分配金額（もしあれば）は、税引前の分配金額を記載しています。以下同じです。

その他記載事項

運用報告書（全体版）は代行協会のウェブサイト（<https://www.superfund.co.jp>）にて電磁的方法により提供しており、「ドキュメント」において閲覧及びダウンロードすることができます。

※ 当サブファンドの運用報告書（全体版）は受益者のご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

【管理会社】

スーパーファンド・ジャパン・
トレーディング（ケイマン）リミテッド

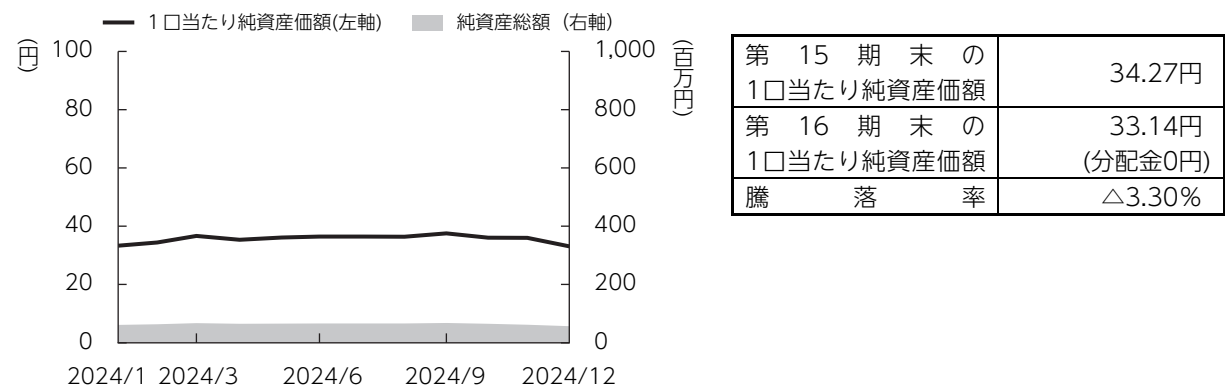
【代行協会】

スーパーファンド・ジャパン株式会社

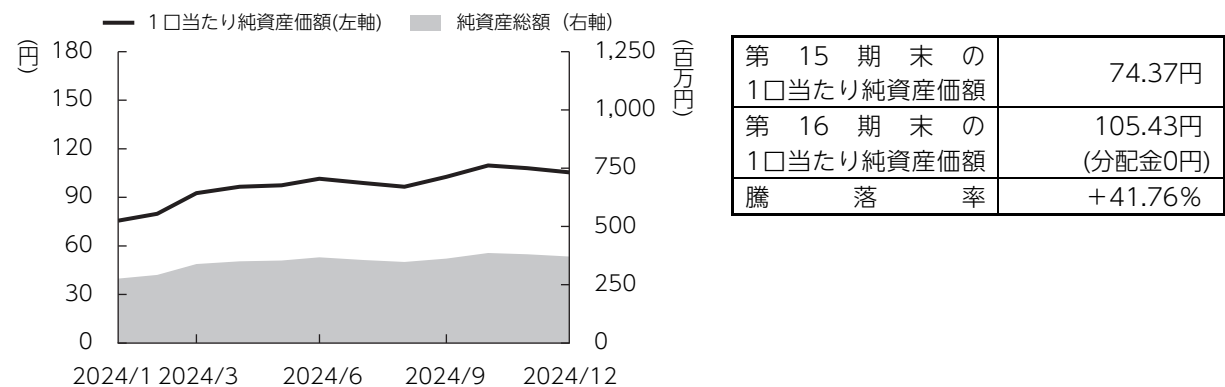
運用経過

■ 当期の1口当たり純資産価額等の推移について (2024年1月1日～2024年12月31日)

円・クラス



ゴールド円・クラス



(注1) 当サブファンドについては分配金の分配を行っていないため、上表では1口当たり純資産価額のみを記載しています。
(注2) 騰落率は、第15期末の1口当たり純資産価額との比較において計算しています。
(注3) サブファンドの購入価額により課税条件は異なりますので、お客様の損益の状況を示すものではありません。
(注4) サブファンドにベンチマークは設定されておりません。

■ 1 □当たり純資産価額の主な変動要因

【円・クラス】

サブファンド・レインボー・オールシーズンズは、シャープパリティ戦略を採用しています。シャープパリティ戦略では、リスク・リターンレシオが最大となる市場セグメントをポートフォリオ内で重くウェイト付けします。

スーパーファンドにより独自開発されたコンピューターによる完全自動化トレーディングシステムにより、株式、債券、商品市場等を投資対象として、ロングポジションのみでバランス投資を行い運用されます。よって、それら各市場の価格変動は、ファンドの純資産価額の変動に影響します。

【ゴールド円・クラス】

サブファンド・レインボー・オールシーズンズは、シャープパリティ戦略を採用しています。シャープパリティ戦略では、リスク・リターンレシオが最大となる市場セグメントをポートフォリオ内で重くウェイト付けします。

スーパーファンドにより独自開発されたコンピューターによる完全自動化トレーディングシステムにより、株式、債券、商品市場等を投資対象として、ロングポジションのみでバランス投資を行い運用されます。よって、それら各市場の価格変動は、ファンドの純資産価額の変動に影響します。加えて、金価格に連動するようヘッジを行うため、金価格の上昇はキャピタルゲインの、金価格の下落はキャピタルロスの要因となります。

■ 費用の明細 (2024年1月1日～2024年12月31日)

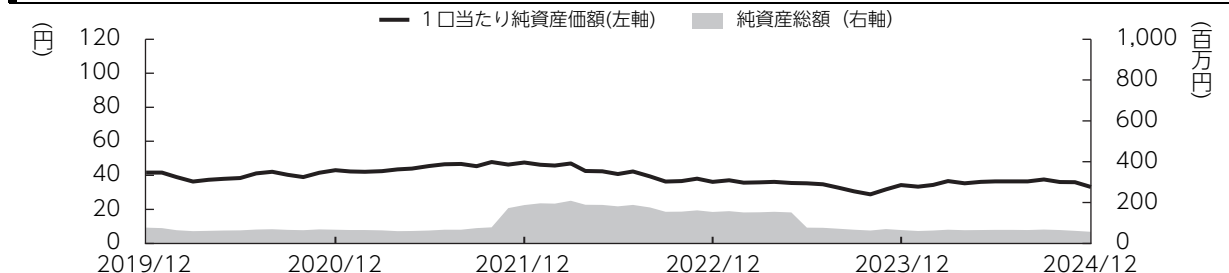
項 目		比率又は金額	項 目 の 概 要
管 理 報 酬		当サブファンドの純資産価額の年率0.10%	受託会社、事務管理会社及びカस्टディアンその他の者との間のやりとり、当サブファンドの活動に関連する契約の管理、申込及び償還を含む投資活動の運用管理の対価
代 行 協 会 員 報 酬		当サブファンドの純資産価額の年率0.10%	日本の法令及び日本証券業協会の規則に従い、受益者への目論見書や財務書類を送付し、純資産価額を公表する等の業務に対する報酬
受 託 会 社 報 酬		当サブファンドにつき年間11,000米ドル	信託証書に従って行う当サブファンドの受託業務に対する報酬
事 務 管 理 報 酬	当ファンドの事務管理及び振替代行報酬	当サブファンドにつき年間5,400米ドル	各評価日における純資産価額の計算、受益権者名簿の管理、締結された申込に係る契約及び申込の受領並びに処理、電磁的方法による受益証券の発行証明及び保有報告書の作成並びに送付などの役務の対価
	年次財務諸表の作成	当ファンドにつき年間1,500米ドル	関連する規制に則した年次財務諸表（監査済み）の作成及びその補助の対価
販 売 会 社 報 酬		当サブファンドにつき純資産価額の年率0.6%	販売の手配を行うことへの対価
そ の 他 の 費 用 （ 当 期 ）		1.00%	監査費用、その他信託事務の処理に要する諸費用

(注1) 各報酬については、目論見書に定められている料率又は金額を記しています。「その他の費用（当期）」には運用状況等により変動するものや実費となる費用が含まれます。便宜上、当期のその他の費用の金額を当サブファンドの当期末の純資産総額で除して100を乗じた比率を表示していますが、実際の比率とは異なります。

(注2) 各項目の費用は、サブファンドが組み入れている投資先ファンドの費用を含みません。

■ 最近5年間の1口当たり純資産価額等の推移について (2019年12月31日～2024年12月31日)

円・クラス



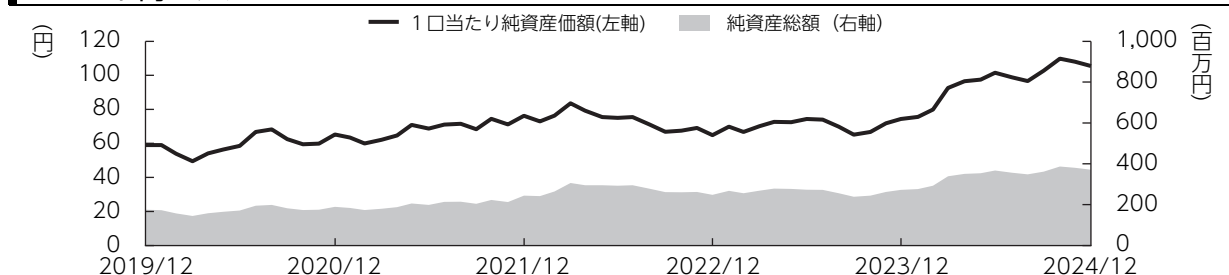
	第11期末 2019年 12月31日	第12期末 2020年 12月31日	第13期末 2021年 12月31日	第14期末 2022年 12月31日	第15期末 2023年 12月31日	第16期末 2024年 12月31日
1口当たり純資産価額(円)	41.66	43.03	47.51	36.18	34.27	33.14
1口当たり分配金額(円)	0	0	0	0	0	0
騰落率(%)	△22.23	+3.29	+10.41	△23.85	△5.28	△3.30
純資産総額(百万円)	77	67	188	154	65	57

(注1) 騰落率は、前期末の1口当たり純資産価額との比較において計算しています。なお、当サブファンドについては分配金の分配を行っていないため、上表では1口当たり純資産価額のみを記載しています。

(注2) 純資産総額は、1口当たり純資産価額に、各期末の発行済口数を乗じ、小数点第1位を四捨五入して計算された値を記載しており、運用報告書(全体版)に記載されているファンドの財務書類における数値と一致しない場合があります。

(注3) サブファンドにベンチマーク及び参考指数は設定されていません。

ゴールド円・クラス



	第11期末 2019年 12月31日	第12期末 2020年 12月31日	第13期末 2021年 12月31日	第14期末 2022年 12月31日	第15期末 2023年 12月31日	第16期末 2024年 12月31日
1口当たり純資産価額(円)	59.01	65.21	76.18	64.79	74.37	105.43
1口当たり分配金額(円)	0	0	0	0	0	0
騰落率(%)	△8.41	+10.51	+16.82	△14.95	+14.78	+41.76
純資産総額(百万円)	175	189	244	248	272	371

(注1) 騰落率は、前期末の1口当たり純資産価額との比較において計算しています。なお、当サブファンドについては分配金の分配を行っていないため、上表では1口当たり純資産価額のみを記載しています。

(注2) 純資産総額は、1口当たり純資産価額に、各期末の発行済口数を乗じ、小数点第1位を四捨五入して計算された値を記載しており、運用報告書(全体版)に記載されているファンドの財務書類における数値と一致しない場合があります。

(注3) サブファンドにベンチマーク及び参考指数は設定されていません。

■ 投資環境について

2024年、世界の株式市場は、数多くの政治的イベントや経済的变化によって目まぐるしい動きの中にありました。注目度が高まった、インドネシア、インド、米国の選挙でしたが、特にドナルド・トランプ氏の再選は財政刺激策への期待を高めました。米連邦準備制度理事会（FRB）は3回の利下げを実施し、市場の変動性を増加させました。一方、日本では17年ぶりの利上げが市場を揺るがしました。

2024年の幕開け、米国株式市場は大きく上昇し、複数の指数が史上最高値を記録しました。その背景としては、インフレの鈍化と、大手ハイテク株の好調な四半期の業績が投資家の楽観論を後押ししたことが挙げられます。その影響は世界市場にも波及しました。一方、欧州市場でも、堅調な経済成長に支えられ、多くの指数が値上がりしました。イギリスでは、逆風が吹く中でも国内総生産（GDP）成長率0.70%という結果を受けて大きく反発しました。日本市場では、円安にもかかわらず、高い企業収益性に支えられて数年ぶりに指数が最高値を記録しました。しかし、年央には日本銀行の利上げがフラッシュクラッシュを引き起こし、日本の株式市場は一時20%下落しましたが、その後12%回復しました。一方、中国市場は1年を通じて圧迫され続けました。これは、弱い景気指標、不動産リスク、及び限られた刺激策が株価に影響を与えたためです。ユーロ圏では経済が大幅に冷え込み、特に製造業の勢いが失われました。9月までは、欧州での前倒し選挙や米国大統領選挙活動の進展といった政治的不確実性が、著しく高い変動をもたらしました。その後、コロナ以来初となる米連邦準備制度理事会（FRB）の「超大型利下げ」の実施により状況は落ち着きましたが、2025年に利下げが少なくなる可能性が示唆されると、年末には再び売りが膨らみました。それでもなお、米国株式市場は高い水準で年を終えました。これは、トランプ氏の勝利後に期待された財政刺激策によるものです。一方、欧州株式市場は不況懸念や政治的不安定の影響を受け続けました。欧州中央銀行（ECB）は利下げを行い、さらに追加的な利下げの余地があることを示唆しました。

2024年第1四半期、債券市場は急速な利下げを期待し緊張状態にありました。しかし、継続するインフレ圧力により、米連邦準備制度理事会（FRB）、欧州中央銀行（ECB）、イングランド銀行（BoE）は慎重な姿勢を取らざるを得ませんでした。この慎重な姿勢が債券価格と利回りの大幅な変動を引き起こしました。

3月には、日本銀行（BoJ）が17年ぶりに政策金利を0%から0.1%に引き上げるという歴史的な動きを見せるとともに、長期金利のイールドカーブコントロールを放棄しました。その結果、円安の中で日本の10年物国債利回りが10年以上ぶりの高水準に達しました。年後半も市場環境は不安定なままでした。世界的な利下げサイクルの始まりと、米国大統領選挙の結果が市場のボラティリティを高める要因となりました。トランプ氏の再選はインフレ懸念を煽り、大規模な売りが発生しました。これに対し、米連邦準備制度理事会（FRB）は3回の利下げを実施しました。9月には50ベースポイントという積極的な利下げを行い、その後2回の利下げを経て最終的に4.25%～4.50%の水準となりました。この影響で、米国債の利回りは大幅に変動しました。

2024年の商品市場は特にエネルギー部門が注目され、緊張感に満ちた様相を呈しました。原油価格は当初、80米ドル以上に上昇しましたが、その要因として中東における地政学的緊張、スエズ運河の封鎖、ロシアのインフラへのドローン攻撃が挙げられます。これに加えて、OPECプラスによる減産や、サウジアラビアの1日あたり100万バレルの追加削減が価格を支えました。しかしながら、中国の成長鈍化、米ドルの強含みにより、年後半には勢いが衰えました。世界的な供給過剰が価格を押し下げOPECプラスによる減産の延長の議論がなされました。ブレント原油価格は一時60米ドルを下回りました。天然ガス価格は穏やかな冬の影響で一時2.00米ドル/MMBtuの安値を記録しましたが、年末には季節的な需要により4.00米ドルまで上昇しました。

貴金属、特に金は輝きを放ち、その安全資産としての評価から、2,800米ドル/オンスという過去最高値を記録しました。一方、銅やアルミニウムといった産業用金属は、中国の需要減退の影響を受けました。

農業セクターでは、極端な気象条件が価格に影響を与えました。カカオ価格は1トンあたり12,000米ドルを超え、コーヒー価格も大幅に上昇しました。一方、小麦や大豆といった穀物は豊作の影響で大きな変動が見られました。

外国為替市場では、米ドルが力強いスタートを切り、G10通貨全体が一時的に上昇しました。これは、米連邦準備制度理事会（FRB）の後々の利下げを市場が織り込んだ結果でした。しかし、実際の利下げと不確実性の増大に伴い、米ドルは下落しましたが、トランプ氏の再選とインフレ懸念によって再び反転しました。日本円は34年ぶりの安値に達し、日本銀行（BoJ）は長く待ち望まれていた金利政策の転換を行いました。欧州中央銀行（ECB）は4回目の利下げを実施し、預金金利を3%に引き下げたことでユーロがさらに弱まり、米国大統領選挙後にはユーロが1ドルをわずかに超える水準で取引されました。

一方、英ポンドは回復の兆しを見せ、経済回復とイングランド銀行（BoE）の慎重な金融政策によって支えられました。

■ ポートフォリオについて

＜ 当サブファンド ＞

当サブファンドは、マスターファンドへの投資によって当該マスターファンドと同一の投資目的を追求しました。結果、マスターファンドへの投資比率は、概ね95%以上を維持しました。

＜マスターファンド＞

マスターファンドは、世界株式、世界債券、コモディティ、為替、キャッシュの主要な投資資産に分散投資するバランスファンドです。マーケット環境により各セクターへの投資比率を機動的にリバランスします。基本となるロングオンリー・ポートフォリオに、キャッシュ比率の引上げやクライシス・アルファの組入れにより、機動的に弱気相場や金融危機時にリスクオフをはかり、グローバルな全天候型戦略を構築いたします。

本戦略は2020年より戦略変更を行いスタートいたしました。複数の戦略を活用して機動的なリバランスを行うバランスファンドとなります。2022年から始まった米国の利下げの影響により、主要組み入れセクターである債券を中心に、パフォーマンスにマイナスの影響がでました。2024年も2023年同様若干のマイナスで一年を終えました。一方でゴールドクラスに関しては、+41.76%と、高いプラスのパフォーマンスを実現いたしました。

■ ベンチマークとの差異について

当サブファンドにはベンチマーク及び参考指数はありません。

■ 分配金について

当サブファンドには分配金はありません。

今後の運用方針

今後の運用方針については、これまでの投資方針が引き続き採用され、マスターファンドと同一の投資目的を追求する予定です。

お知らせ

特にありません。

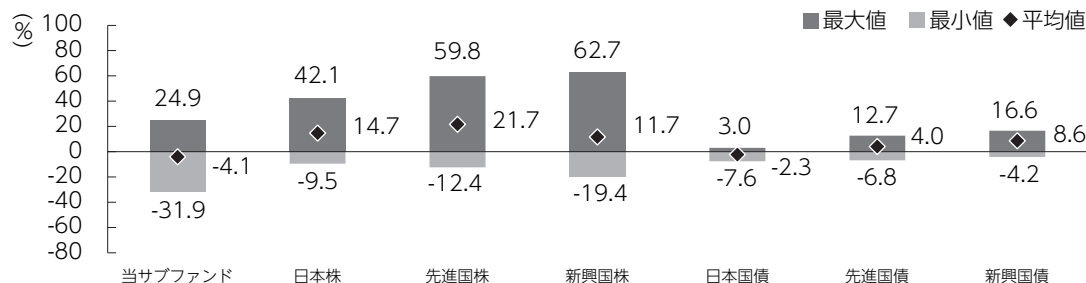
当サブファンドの概要

ファンド形態	ケイマン籍 オープンエンド契約型 外国投資信託（円建て）	
信託期間	信託設定日は2009年6月5日、償還日は設定日から150年後	
運用方針	マスターファンドの投資顧問会社が随時選定するテクニカル分析ソフトウェアを使用したトレーディング・シグナルに基づいて運用されます。当サブファンドのマスターファンドは、投資機会を活かし、最新のトレーディング戦略を利用する予定であるため、将来の運用について、現時点で既定されたものはなく、またいかなる制限を受けるものでもありません。マスターファンド投資顧問会社は、マスターファンドが上場先物及び店頭デリバティブ（外国為替取引を含みます。）の取引においてレバレッジを用いることにより高い収益が見込めると判断したときに、レバレッジを利用することができます。	
主要投資対象	当サブファンド	スーパーファンドSPCのサブファンドである分別ポートフォリオ・レインボー・オールシーズンズの利益参加シェア
	マスターファンド	株価指数、債券、商品（貴金属等）、通貨、現預金へのバランス投資、これに加えて、ゴールドクラスは金先物
分配方針	現段階では分配を行う予定はありません。但し、管理会社はその裁量で分配を決定する権利を留保しています。	

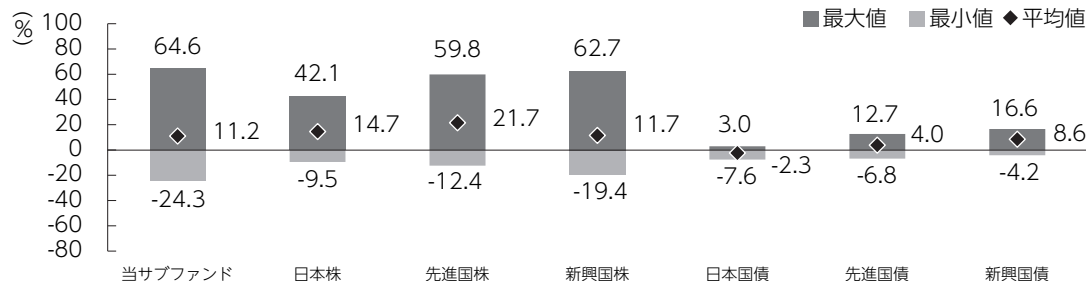
(参考情報)

ファンドと他の代表的な資産クラスとの騰落率の比較

円・クラス



ゴールド円・クラス



※ すべての資産クラスがファンドの投資対象とは限りません。

※ 2020年1月から2024年12月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値をファンド及び他の代表的な資産クラスについて表示したものです。

○各資産クラスの指数

日本株 …… 東証株価指数 (TOPIX) (配当込)

先進国株 …… MSCI-KOKUSAI指数 (配当込) (円ベース)

新興国株 …… MSCIエマージング・マーケット・インデックス (配当込) (円ベース)

日本国債 …… JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス (日本) (円ベース)

先進国債 …… JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス (除く日本) (円ベース)

新興国債 …… JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス・エマージング・マーケット・グローバル・ディバースファイド

※新興国債の指数は、各月末時点の為替レートにより円換算しています。

ファンドデータ

■ 当サブファンドの組入資産の内容（2024年12月31日現在）

【組入ファンド】（組入銘柄数：1 銘柄）

資 産 の 種 類	組 入 比 率
スーパーファンドSPCの株式（分別ポートフォリオ・レインボー・オールシーズンズ・クラスB ジャパンの利益参加シェア） （以下「SPCレインボー・オールシーズンズの株式」と表記）	95.65%
現金、受取債権及びその他の資産	4.35%

（注）組入比率は純資産総額に対する各組入資産の評価額の割合です。以下円グラフも同様です。



（注1）組入全銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）に記載されています。

（注2）組入資産の内容は、当サブファンドの財務書類の記載によります。

■ 純資産等（2024年12月31日現在）

項 目	第16期末
純 資 産 総 額	427,579,813円
発 行 済 口 数	5,229,265口
1 口当たり純資産価額	81.77円

（注1）純資産総額及び発行済口数は、当サブファンドの財務書類の記載によります。

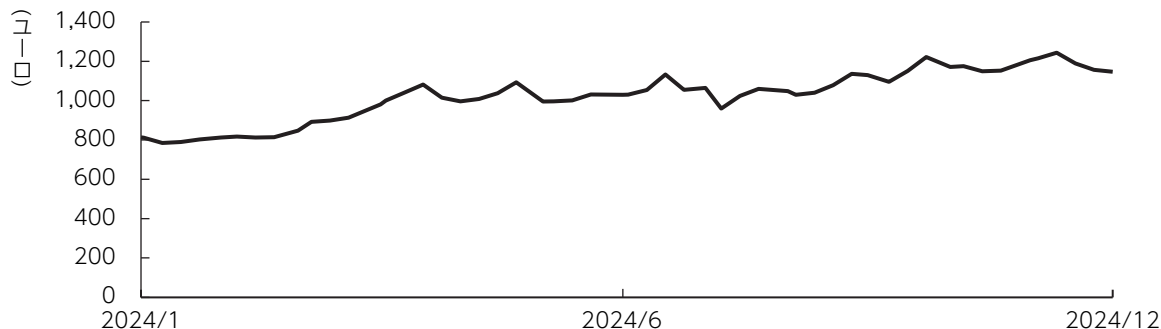
（注2）当期中における追加設定元本額は400,000円、一部解約元本額は19,145,266円です。

■ 投資先ファンドの概要 (2024年1月1日～2024年12月31日)

■ スーパーファンドSPC (マスターファンド)

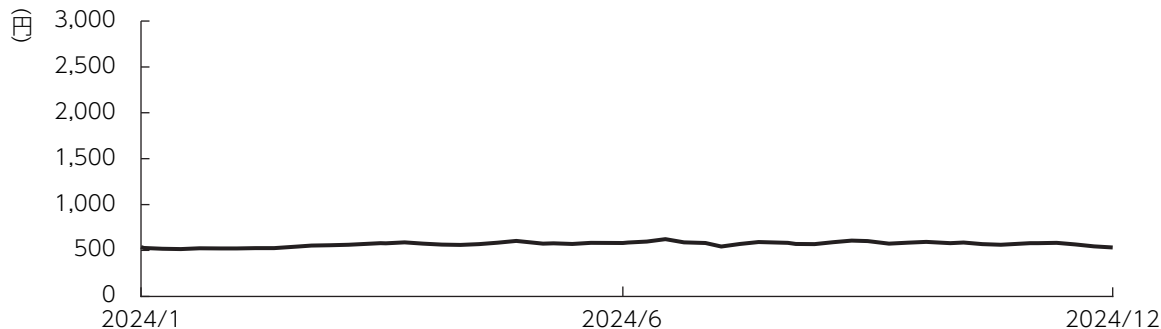
スーパーファンドSPC分別ポートフォリオ・レインボー・オールシーズンズ クラスBジャパン (ゴールド・ユーロ)

【1口当たり純資産価額の推移】



スーパーファンドSPC分別ポートフォリオ・レインボー・オールシーズンズ クラスBジャパン (円)

【1口当たり純資産価額の推移】



【費用の明細】 (2024年1月1日～2024年12月31日)

項 目	項 目 の 概 要	
管 理 報 酬	クラスBジャパン (円) 利益参加シェア及びクラスBジャパン (ゴールド・ユーロ) 利益参加シェアの各純資産価額の年率1.0%	
成 功 報 酬	クラスBジャパン (円) 利益参加シェア及びクラスBジャパン (ゴールド・ユーロ) 利益参加シェアの各純資産価額の増加額のうち毎月20% (金価格の上昇のみに起因する価額増加を排除したハイウォーターマーク方式を適用)	
販 売 会 社 報 酬	SPCレインボー・オールシーズンズにおいては課されない	
事 務 管 理 報 酬	事 務 管 理 報 酬	年間18,000米ドル
	年次財務諸表の作成	スーパーファンドSPCにつき年間1,500米ドル
その他の費用(当期)	監査報酬、保管費用、その他信託事務の処理に関する諸費用 0.99%	

(注) 各報酬については、目論見書に定められている料率又は金額を記しています。「その他の費用(当期)」には運用状況等により変動するものや実費となる費用が含まれます。便宜上、上記期間のその他の費用の金額を投資先ファンドの上記期間末の純資産総額で除して100を乗じた比率を表示していますが、実際の比率とは異なります。

【保有銘柄情報】、【資産別配分】、【国別配分】及び【通貨別配分】については、マスターファンドが、世界の主要先物市場における先物を中心に運用しており、オン・バランス資産のほとんどは証拠金であり、その配分は随時変動していることから、一定の時点におけるこれらの情報を開示することに大きな意味がないため、開示しておりません。

(2024年12月31日現在)